

令和元年度 第2回 伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議 会議録

【日 時】 令和元年 11 月 26 日（火） 15 時 30 分～17 時 20 分

【場 所】 別館2階 大会議室

【出席者】 22 名

(敬称略)

機関・団体・役職名等	氏名	役職
伊豆市 商工会長	杉山 晃央	会長
伊豆市 総合計画審議委員	植松 真由美	副会長
伊豆市 観光協会長	長谷川 卓	委員
伊豆市 区長会長	萩坂 尚巳	委員
NPO サプライズ 事務局長	野田 康代	委員
伊豆市 主任児童委員	内田 直美	委員
伊豆市子育てママスタッフ（※代理出席）	浅田 恵子	委員
静岡銀行 修善寺支店長	鈴木 秀昭	委員
三島信用金庫 修善寺支店 次長（※代理出席）	土屋 光平	委員
三島公共職業安定所長	鈴木 滋	委員
伊豆市長	菊地 豊	
副市長	本多 伸治	
教育長	西井 伸美	
総合政策部長	堀江 啓一	
総務部長	伊郷 伸之	
市民部長	梅原 敏男	
健康福祉部長	右原 千賀子	
産業部長	滝川 正樹	
総合戦略課長	佐藤 達義	事務局
総合戦略課 主幹	山口 吉久	事務局
総合戦略課 主査	杉山 暁彦	事務局
総合戦略課 主任	下村 亮介	事務局

【資 料】

- 次 第
- 委員名簿、席次表
- 資料1-1 第2期人口ビジョンにおける 2045 年の将来目標人口
- 資料1-2 人口の現状について
- 資 料 2 令和元年度 市民アンケート調査結果概要
- 資料3-1 次期総合戦略骨子案策定に向けて
- 資料3-2 伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案
- 第1回 伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議 会議録

1. 開会

2. 議事

(1) 人口ビジョンにおける2045年の将来目標人口について 【資料1-1・1-2】

に基づき、事務局より説明

《 質疑応答・意見交換 》

(委員)

まだ東京に人口が集中しているという話でしたが、今はインターネットも普及しており、パソコンがあればどこでも仕事ができる環境にあることから、仕事を選ばなければ、わざわざ都心に行くよりも、地方であっても自分の気に入ったところで仕事をする方が良いという意見も最近よく耳にします。東京に行けば、仕事は確かにあるかもしれませんが、住みやすさを重視する傾向もあるのかなと思います。

また、伊豆の国市のお母さんたちからも、「伊豆市は色々なことをやっていて良いね」といった声もかけられます。どうしても学校のクラブ等で伊豆の国市や函南町に通うことは多いと思いますが、その差もだんだんと小さくなってきているのではないかと思います。

(会長)

ありがとうございます。伊豆の国市のお母さんからのご意見も非常に嬉しく感じられます。他に皆さんから何かありませんか。子育てや生活、仕事の面でギャップがあると思いますが、いかに生活を快適にし、仕事に行くのも便利になっていくと良いのかなと思います。

(委員)

高校生から大学生の年代で一番転出者が多いことはやむを得ないし、卒業後の最初の社会人生活を県外で過ごすという選択肢もあると思いますが、その後、伊豆市に戻ってくる、あるいは、他県から転入してくる30代・40代以降の働き盛りの方たちが伊豆市に移住しやすくなるような環境をぜひ作っていききたいし、その必要があると思います。中学校までは伊豆市内で、高校も少なくとも県内で十分な教育を受け、外へ出てみたいという人は若いうちに外の空気に触れることもむしろ良いことではないかとも思いますので、その後に戻ってきてもらうための環境づくりが大切だと思います。

(委員)

人口の資料の世帯数を見ると世帯数自体は減っていない状況ですね。人口は減っているが、世帯数は減っていない。むしろプラスになっている時もあると思いますが、理由がわかれば教えていただきたいです。

(事務局)

全体の傾向として観光業において、若い世代の一人世帯の転入が非常に多くなっています。残念ながら転出される方も多く、20代・30代はマイナスであり、30代・40代の移動率はゼロに近づきつつありますが、まだマイナスで、人口としては右肩下がりの傾向です。

(委員)

観光業において一人世帯の転入が増えていることを伺いますと、そのような方々に伊豆市に定住していただき、家庭を持ち、子育てしていただくという期待が少しは持てるのではないのでしょうか。伊豆市で家族を持っただけのような対策をしっかりと実践していくことでプラスになるのかなという気がします。若い世代の方々や今まで伊豆市内になかったママさんたちの活動もここ数年でかなり目立ってきており、子どもたちの活動も活発になってきています。皆さん頑張ってくださいというお礼、注目されてきているため、そういった部分をもっともっとPRしていければ良いと思います。

(委員)

今までは、私の近所でも息子さん夫婦が伊豆の国市に家を建てて住んでいるということを知ることが多かったのですが、最近では牧之郷に家を建てたという話も聞きます。やはり、子どもの教育や交通の利便性等を色々考えるとやむを得ないとも感じますが、伊豆市外でなく、伊豆市内に家を建てて住める環境をつくるということも1つありなのかなと最近では思うようになりました。やはり私が住んでいるところは中伊豆の奥の方で、私が子どもの頃にはあったものが無くなり、面倒な部分もあるものですから、外に出ていってしまうこともやむを

得ないと思いつつ、市内に留まれるように、家を建てる場所やアパート・賃貸の物件が沢山あり、伊豆市の自然や人が優しいといった伊豆市の良さを皆さんが感じてくだり、市内に踏み留まれるようになると良いなと思います。

それから、医療費の問題で、以前は、伊豆の国市は良いが伊豆市は良くないという話もありましたが、今は同じベースになりましたので、そういった部分も一緒にPRしていけると、伊豆市にもっと目を向けてくれるかなと感じます。また、子育てママスタッフによる familyizu という子育て冊子も8冊も出ており、こういったことが表に出ると、市民の方も興味を持ちますし、地元の新聞にも掲載されるので、市民へのつながりが増えてくると思います。

(会 長)

ありがとうございました。先程お話がありましたように、若い夫婦が引っ越しするタイミングとして子どもの高校進学時があげられます。5～6年前は、子どものために伊豆の国市や函南町に引っ越し、子どもの通学費を安くあげ、お父さんは逆に軽トラックで通勤費を貰って伊豆市に通勤し、お母さんは乗用車で出掛けというのがワンパターンでしたが、それが今の話のように市内に分家するケースも出てきました。それがいつかは親のいるところにまた一緒に合流してくれるといった期待も持てるのかなと思います。

他にどうでしょうか、よろしいでしょうか。では、また何かありましたら、最後に伺いたいと思います。

人口ビジョンについては、2040年に約23,000人、2045年に約21,000人の目標人口の設定について、皆様の了承をいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

(一 同)

<異議なしで、了承>

- (2) 令和元年度 市民アンケート調査結果概要について 【資料2】
- (3) 第2期 総合戦略骨子案策定に向けて 【資料3-1】
- (4) 第2期 総合戦略骨子案について 【資料3-2】 に基づき、事務局より説明

※ 資料説明後、子育てプロモーションビデオを上映

《 質疑応答・意見交換 》

(委 員)

まずアンケートを拝見し、回答率が3割程度ということで、それが高いのか低いのかはよくわかりませんが、皆さんが似たような方向を目指しているのを感じました。それで、戦略に落とし込まれている「地域の産業を支える人材育成・確保プロジェクト」、「商工業の活性化に挑むにぎわい向上プロジェクト」、「ブランディングによる販路拡大プロジェクト」、「人を呼び魅力を売り込む稼げる観光プロジェクト」のいずれも重要であるし、良いと思います。また、子育てや教育、健康づくり、移住情報、拠点施策、これも良い施策だと思いますが、もう一つ具体的などころまで踏み込んでいないような気がします。私は観光業に携わっているため、伊豆市における観光業の位置付けが非常に重要だと思いますし、先日別の会議で市で分析いただいたデータを拝見しましたが、それにおいてもかなり観光業の比重が高い。また、先ほどの人口のところで、世帯数が減っておらず、単身世帯が増えているという話がありましたが、私が営んでいる旅館の場合も従業員で移住してくる人たちは若い方の一人者です。この方々は大体市内の賃貸物件に入居し、一応住民票を移し、それほど定住はしませんが、数ヶ月から数年間移住する人たちです。定住はしませんがそういった人たちが相当居ますし、必要な状況で、このような方々がいないと伊豆市の宿泊産業・観光産業は成り立っていません。このような方々をどのように受け入れていくか・受け入れやすくするか、賃金のみならず、この地域に移り住んで仕事してみたら暮らしやすいと感じる環境をどうやって整備出来るかが非常に重要だと思います。ここに書いてあることはまさしくやっていかなければならないことだと思います。ただ、少しイメージとして、漠然としており、もっと具体的に書けないかと思いました。わざとぼかして書いているのではという気がしました。

(委 員)

アンケートで、「伊豆市が住みよいと思うか」、「今後も伊豆市に住み続けたいと思うか」について、7割程度の回答を維持しているとありますが、経年比較では低下傾向にある点を心配に感じました。例えば移住された方の伊豆市へ来て良かった感想などをホームページに掲載出来ないでしょうか。やはり実際に移住してき

た方からの伊豆に住んで良かったという意見はインパクトがあるのではないかと思います。また、「農業体験など地域資源を生かした体験の場の提供」ということで、外の人に来て農業体験出来たら良いと思っていますが、農業振興区域の関係でほとんど何も出来ない地区と言われてしまうため、そういった点は行政の力でなんとか出来るような形にさせていただいたらありがたいと思います。

(会 長)

ありがとうございました。事務局より何かコメントがありますか。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございます。もう少し具体的にわかりやすく伝えたいと思いますが、まずはアンケートの結果等から取り組みの方向性を今回は提示させていただきました。この方向性は行政の政策だけでなく、同じ目標に向けて市民の方や各種団体の方々と共有し、施策の実施や事業展開したいと考えていますので、次回はもう少し具体的にご説明したいと思います。

また、ホームページの関係ですが、ホームページ自体が見にくく、大変申し訳ございません。実は、移住者の方へ出している冊子があり、その中には移住者のインタビューを載せており、その冊子をホームページにも掲載しているのですが、非常に見にくい状況です。現在、移住情報を出すホームページの改修作業を行っており、年末・年明けぐらいには移住者の声も含め、もう少し見やすい形で提供していきたいと考えています。農振(農業振興地域)の関係は、課題が大きいので、この場ですぐにお答えできませんが、そのような課題があるということはこちらも認識しております。

(委 員)

私は普段、移住相談センターで業務させていただいていますが、ちょうど今日も午前中に40代位の方と60代位の女性2人組が飛び込みでいらっしゃり、市内の物件を見てきたという話を伺いました。その方々はゲストハウスをやりたいとのことでした。やはり、市長も再三心配されている部分で、市内を見てまわると空き家が多いのに不動産情報に上がっていない状況ですが、地域に何回も足を運ばないとわからないこともありますし、相談を受けていても、空き家はあるよねという声も結構聞こえてきます。前回の会議の中でも、移住施策でネックとなるのが、借りたい人はいるのに貸してもらえないという点が非常に大きく、業務をしても課題であると感じています。これはなかなか難しい部分でもあります。色々な情報を集めながら、少しでも借りることが出来る物件を増やしていけたら良いのではと思います。先程、委員がおっしゃっていたように、観光業に携わる一人暮らしの従業員の方は、定住はしないものの、地方創生においては必要な方々ですので、若い世代へのPRというのは必要だと思います。先程の子育ての世代の方へのPR動画はすごく良いイメージなので、今後は、観光業の一人世帯の方をモデルにしたケースも作成すると、伊豆市で働いてみようかなと思ってもらえるところに繋がる気がしますので、今後、検討いただければと思います。

(委 員)

昨年の会議でも、もう少し上手くPR出来ると良いというお話が出ていましたが、伊豆市は良いことをやっているのに、そのPRをどのように行ったら効果的かという点で、先程のプロモーションビデオは非常にわかりやすく良いなと思いました。そんな風に伊豆市の良いところをもっともっとPR出来ると良いと思います。それから「写真(え)になるまちプロジェクト」についてですが、私自身も伊豆市に住んでいますが、まだまだ知らないところが沢山あり、旭滝も去年初めて行ったのですが、こんなに良いところがあるのだと改めて感じたところです。修善寺温泉も改めて家族で行ってみると、とても素敵で良いなという場所があり、そういうところはインスタグラムでも結構投稿されています。千葉県の濃溝の滝は、本当に水路みたいなところが日に当たるとハートに見えるということで投稿され、そこからものすごい観光客が集まるようになったという話も聞きますので、伊豆市の良いところをどんどんアップしていくことによって、伊豆市は良いなと思ってもらえるようになっていくのかなと感じました。PRについては色々なやり方で取り組んでいくと良いと思います。子育てについては、伊豆市は本当に色々なことをやってくさっていると感じていますし、若いママたちも少しずつ活動を広げてくれています。小中学校でもふるさとを大事に思う・誇りに思うということにもすごく力を入れてくださっています。体験型の授業を通して、子どもたちの地元を愛する気持ちや誇りを身に付けて行くという部分を教育の中でも一生懸命やっていて、「伊豆市は良いところだから大きくなったら帰って来ようかな」という気持ちが根付くように少しずつ積み重ねて行けると良いと思います。伊豆市は首都圏が近いので、県内の学校に行くよりもそちらに行ってしまう、そのまま就職というケースが多いと思いますが、伊豆市に魅力があれば帰ってきてくれるのではないかと感じます。それには働く場所や住む場所という

ところも大事だと思いますので、家を建てられる場所の確保や先程も出ておりましたの空き家の活用といった部分を進めていけると良いのかなと思いました。プロジェクト名については非常にわかりやすい名前が良いなと思いました。内容についてはもう少し具体的にという意見がありましたので、今後はそのあたりを進めていただけたらと思います。

(委員)

人材育成や雇用のミスマッチ解消という点で、先程委員からもありましたが、単身で移住して仕事をしていると、どうしても一人になる時間が多く、そこから孤独を感じたり、心理的にあまり健全ではない状態になってしまいがちですので、そのあたりのケアや周りとのコミュニケーションを取ることが出来るような対策も必要だと思います。また、私も自営業ですので、祝日に学童保育が休みというのが大変で、観光業においても忙しい時期に学童保育があると助かるお母さんは多いと思いますし、忙しい時には一時的に預かってもらえるようになると、お母さんたちも休みの日でも安心して仕事に行けると思います。

ブランディングによる販路拡大についてですが、確かに売るといふ部分は生産者としてありがたいですが、農業従事者もやはり高齢化しており、担い手が少ない状態ですので、農業人口がもう少し増えてもらえるとう嬉しいです。なかなか難しいかもしれませんが、卒業後に都内で働きながら、休日の週末には農業の手伝いをするといったことをボランティアではなく、1日あたりの報酬も貰いながら出来るようになると、農業者の営利にもつながり、もしかしたら何年後かに農業に転職したいという方や観光業にも携わってみようという方が出てくるのではないかと思います。インターネットを活用した販売促進も重要ですが、先程のような部分も一緒に取り組んでいただけると良いと思います。

また、SNSの投稿についてですが、私もインスタグラムをやっており、色々な投稿があって、その後フォローしたり、コメントをくれたらコメントを返すなど、例えば「1日、伊豆でデートコース」のように、「パノラマパークに行き、その後、東府やの足湯でご飯を食べて、修善寺観光をした」という書き込みがあり、少しそういったコースがあるとまた行ってみようという気持ちになるのではないかと思います。ただ、写真をアップするだけではなく、その次の展開もあると良いなと思います。

子育てについては、自分もfamilyizuやPVに出させてもらいましたが、ママスタッフの工藤さんも言っていたように、お金をかけて作っても、地元のお母さんたちはどこで情報を発信しているかを知らないように感じます。また、公園に遊具が出来たり、学童保育が充実したり、実感出来るものがないと、なかなか満足度は得にくいと思います。子育て中のお母さんたちも働いている方々が多いので、やはりそういったお母さんたちのケアや子育てに対する自分たちの声に応えてもらっている反応や手応えをもう少し感じられるような施策を入れてもらえるとう良いと思います。

最後に子どもの教育環境ですが、確かに充実していると思います。学校に行けていない子どもさんも多くいますし、これから情報社会・ITが進むため、今後はフリースクールではないですが、学校に行かなくても勉強出来る環境を整えていく必要もあると思います。そうすれば、他の市町で学校行きにくいという子どもさんも伊豆市に行けばこういう施策があるから行ってみようと思ってくれるのではないかと思います。やはり学校に行けていないお子さんのお母さんたちの声も汲み取りながらやっていかないと、なかなか現状の学校の教育環境だけでは、ケアしきれないと思います。また、IT等を取り入れた取り組みは今後必要になると感じていますので、是非入れてもらえるとうありがたいと思います。

(会長)

ありがとうございました。時間も押していますが、今の3名の意見に対して市長から一言コメントをいただけたらと思います。

(市長)

ありがとうございます。実は、伊豆市は全国地域ブランドランキングで23位です。ここがすごく悩むところで、なぜ伊豆市がそんなに高いのか。このブランドランキングと、私たちが感じているランキングはどうしてこんなに違うのか。伊豆市＝伊豆半島と捉えてしまうイメージもあるにはありますが、伊豆市と特定した場合においてもやはりイメージは良くなっています。先程のプロモーションビデオを見ても、伊豆市は良いなあとと思いますし、色々なイベントで伊豆市の紹介として使っている写真も綺麗で、イメージはすごく良いと我ながら素晴らしいと思っています。しかし、残念ながらそれが人口減少対策にはつながっていない。ただ、富士・御殿場・三島でも出生数は減っており、他の多くの自治体でも同じように出生数・人口総数は減っているので、人口減少問題に向けて我々も頑張りますが、この対策は国以外には出来ないとも感じています。国の施策として北欧やフランスのように本当に出生数を上げるための思い切った大胆な施策を取らない限り難しい。こん

なに全国の自治体が頑張っているにもかかわらず出生数が減っていることを考えると、我々が目指すのはやはり今、住んでいるお母さん方や働く世代、お年寄りを最大限ケアしつつ、行政サービスを落とさないようにすることに尽きるのではないかと思います。では、そのために何をやるのかについては、先程何人かの委員の方々からも具体的な施策の記載について発言いただきましたので、事務方に具体化を伝えたいと思います。

(会 長)

ありがとうございました。残りの委員の方から一言ずつコメントをいただきたいと思います。

(委 員)

今回初めて参加させていただきました。市民アンケート結果の中で気付いた点として、まとめの中にもありましたが、若い世代の住みやすさの満足度が低くなっています。あえて厳しい見方をすると、普通という回答も住みにくくはないけど、住み良くもないという人たちが選ぶ項目です。ただ、これからも人が減っていくことを考えると、やはり住みやすいとストレートに感じてくれる人たちが増えてくるのが大事だと思います。特にその傾向が20代に少ないようですが、20代はこれから就職・結婚を迎える年代で生活の基盤をどこに置こうかと考えている重要な年代だと思います。この年代が住み良いと思えるような施策に取り組んでいただければと思います。

(委 員)

自分の中では、人口増に繋がるのは雇用の創出と感じているところがあります。企業誘致はなかなか難しいと感じていますが、伊豆市の場合は何もしなくても観光資源があるため、人が集まって来て良いなというイメージでした。私の地元の沼津市の場合、港湾などを整備し、やっと人が集まりつつありますが、伊豆市はそもそも修善寺温泉があります。そこに人が集まるためには当然住むところが必要になりますし、従業員さんも多く雇用をしなければならぬとなれば、ある程度のコストも必要ですし、住む人の住居費などに対して、市として出来るところがあるのではと感じています。また、市営住宅があるかと思うのですが、実際にどの程度活用されているのかも少し気になるところです。

また、子育て支援については、第三者目線で見ても、出来ているかなと思います。ただ、産婦人科がほとんどない状況については、出生数が百何十人の中で経営が大変だという面もあると思いますが、子育て世代の方からすると、必要なのではないかと感じました。

(委 員)

産業面では雇用価値ですね、資料2の裏面にありますように企業誘致・留置の推進が多く、新しいものがあれば良いように見えますが、一方で既存企業のグレードアップ・魅力ある職場づくりといったことから取り組んでいただければ良いと思います。そういった助成も厚生労働省の事業でありますので、ぜひ活用し、働きやすい職場になるように、経営者の方には知っておいてもらいたいと思います。また、子育て支援策については、やはり仕事と子育ての両立支援として、魅力ある職場づくりとしては、所定外労働時間を減らすことや年次有給休暇を取得していただくことにプラスして、育児と仕事の両立支援、それが大事だと思います。ですから新しい会社を誘致するのではなくて、今ある企業をもっと良い方向に導いてもらえればと思います。冒頭に社人研のシミュレーションがありますが、これを見ると、目標数値の21,000人と6,000人違いますね。その後の資料の1-2を見ますと、大学で東京へ行ったり、静岡県内の伊豆の国市行ったりする数が減っているのは私も良い方向に向かっていると思います。

(副会長)

手前味噌の話ですが、娘が伊豆市に土地を求め、家を建て、生活を始めました。子どもも生まれ、色々な支援を活用しているところを傍で見ている、「伊豆市も捨てたものではない、伊豆の国市に負けていない」と感じています。また、子育て世代の人たち同士が仲良く、情報交換をしながら子育てしているところが素晴らしいと思います。

(会 長)

ありがとうございました。皆さんには、まだまだご意見をいただきたいところですが、時間が超過してしまいましたので、この辺りで意見交換を終了させていただきたいと思います。なお、人口目標の設定と骨子案について、皆さんに了承いただきまして、第3回に向けて具体化してもらいたいと思います。議事進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

3. その他

(事務局)

本日は貴重なご意見をありがとうございました。1点だけ報告させていただきます。本日、伊豆総合高校の校長先生は仕事の関係で欠席されていますが、先程来、ふるさとを誇りに思うことや住みやすさをしっかり感じてもらうことも大切であるとのご意見をいただいた中で、現在、伊豆総合高校の生徒さんと授業を一緒に実施させていただいています。実は、次のプロモーションビデオには伊豆総合高校の生徒さんに出ていただく予定になっており、先日の総合学習の中で高校生として、出来ることとして自分たちで情報発信していくという話も出ております。そうしたところもヒントとし、様々な方にPRをしていきたいと思えます。

本日いただいた意見は、事務局にて整理させていただき、第3回までに会長に相談させていただきながら、資料を出させていただきたいと思えます。第3回については、2月頃を予定しています。また改めて、事前に連絡をさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思えます。それでは、第2回創生戦略検討会議を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

【閉 会】